

説教余滴 アメリカシロヒトリ

アメリカシロヒトリは、チョウ目ヤガ上科トモエガ科のガの一種の害虫。北アメリカが原産地、ヨーロッパ、中国、韓国、日本（本州・四国・九州）に外来種として移入分布しています。私の同世代の方々は、アメリカシロヒトリの名には馴染みがおあり、と思います。

アメリカシロヒトリの幼虫は年 2-3 回、発生し、卵で越冬します。卵は数百個単位で、3 齢虫までは白い巣網の中で成長。成虫は 5 月中旬から 6 月、7 月下旬から 9 月頃に羽化します。食草は広く、サクラ、ヤナギ、カキ、コナラ、リンゴなどおよそ 100 種類以上の樹木に害を及ぼしています。成虫は長さ約 1cm、翅を広げた大きさは約 30mm で全体的に灰白色、体は赤味を帯びています。前翅には多数の小黒点があるが、2 度目以降の発生種では黒点が消えかかるようです。

日本では第二次世界大戦後、アメリカ軍の軍需物資に付いて渡来したとされます。1945 年に東京で発見されたのを最初に山手線沿線、中央線沿線に広がり、その後関東地方を中心に分布を広げました。仮に、刺されても人体には影響はなく、アレルギー反応を示す人に影響がある程度ですが、食害によりサクラなどが衰退すること、何よりも糞で樹木の周囲が汚くなることから駆虫が行われてきました。用いられる殺虫剤は、スミチオンやオルトラン水和剤などが一般的。1970 年代から 80 年代にかけ大発生し、養蚕農家などに大きな被害がありましたが、その後は同様の大発生は減っています。原因は不明ですが鳥類や、寄生性のハチなど、天敵の捕食の対象になったため、大規模な発生が減った可能性があります。そうです。

野田公園のカッコウも、南へ帰る前にこれを大量に捕食して、日本の環境保全に貢献してくれました。神が創りたもうものに、無駄なもの、不必要なものはありません。